

営業部会 見解発出！

職場の努力に報いること無く、格差を広げる経営姿勢に対して

2024 JR総連春闘で培った組織力を基に立ち向かう JR東労組営業部会見解

JR東労組営業部会は、2024 JR総連春闘方針に基づき「統一要求・統一闘争」にこだわり「一律ベア12,000円」の要求実現に向けて組合員と共にたたかいを創りだしてきた。

中央本部は3月8日、「申15号2024年度賃金引き上げに関する申し入れ」と「申16号2024年度夏季手当に関する申し入れ」の第3回交渉において、定期昇給（昇給係数4）の実施、所定昇給額と同一の額及び4,000円を加える基本給改定の実施、基本賃金に6,000円を加えるエルダー社員の賃金改定の実施、夏季手当については、基準内賃金の2.7ヶ月などの早期回答を受けた。

営業職場で働く仲間からは「現場社員の努力で鉄道営業収入は前年を大きく上回ったのになぜ満額ではないのか」「融合と連携で企画業務を超勤で行い疲弊している」「みどりの窓口は毎日混雑しているのに労働実感に見合っていない」「キュンパスでの旅客案内・対応による職場の努力に見合っていない」等の不満の声が出された。また「職責の重みを加味している」との回答に対しても「職責を超えて収入確保に奮闘した」「現場は職責関係なく業務量が増加している」「ベアに格差はおかしい」と、過去最高の働き度で過去最大の格差に対して職場組合員は怒り心頭である。

更には、夏季手当2.7ヶ月に対し「ベア等による基準内賃金の増加により0.13ヶ月相当の押上げ効果が生じ、2.83ヶ月と同等の支給水準」と発表する等、誤魔化しの姿勢に、多くの組合員や未加入者が怒りをもっている。

その一方で他労組は早期妥結。経営のパートナーとされる社友会は「私たちの意見はしっかりと考慮していただいたものと受け止めている」「新賃金と夏季手当が同時公表となりましたので生活設計に役立てていきましょう」と主張し、我々のたたかひの足を引っ張ってきた。私たちが対話やアンケートを通じて集約した社友会会員の声は「納得できない」「ベアに格差はならない」「誤魔化しの経営姿勢が許せない」と言った声が多数であり、今後も関わりを継続して創りだし、社友会会員のJR東労組への結集を呼び掛けていこう。

申19号緊急再申し入れ以降、各職場で常駐・総対話を行い、組合員、未加入者から集約した7000件を超える声を訴えてきたが、「合理的な差は格差ではない」「要求の趣旨踏まえ再考すべきとあるが、回答時の内容、本日の議論を踏まえ変えることはない。再考の申し入れがあるものの、その余地はない。最終回答である」と述べた。職責を重視し、格差を合理的な差とするJR東日本の経営姿勢は、JR東海で新たに提案された「定期昇給に評価が組み込まれた『人事・賃金制度の見直し』と同様の考えがあると危機感を感じる。私たちは新たな施策の5本柱にある、「年功賃金の廃止反対！手当・定昇カットなど生涯賃金の減額反対！更なる成果主義型への変更を許さずたたかおう！」を合言葉に、成果主義型賃金の導入を許さないたたかひを創りださなければならない。鉄道の安全が揺らいでいる今だからこそ「鉄道業に競争意識はならない」と強く主張し、職場の声を受け止めない、働く者の苦勞に報いない経営姿勢に対し、営業部会の総力で立ち向かっていこう。

今春闘で強化された組織力を基に未加入者に対してJR東労組への結集を呼び掛け、組織拡大を実現し、たたかひ抜くことを述べてJR東労組営業部会の見解とする。

2024年3月26日
JR東労組営業部会